

特集

あなたのサークルは

勝ち組?

負け組?

「新歓WAR」の泣き笑い

「新歓WAR」と形容する向きもある。

新入部員よ、来たれ! 4月入学式当日からあまたのサークルが、
あの手この手の知恵ふり絞って、シノギを削った。

で、結果はどうだったのだろう。ランダムに聞いてみた。

あなたのサークルは、勝ち組? 遺憾ながら負け組?

学生記者取材班

神輿ストーリーキング

「ソイヤ! ソイヤ!」「気合いだ! 気合いだ!」。突如かけ声が響いて、ハダカの神輿が、ペデ下を練り歩いた。5月25日の昼休み。ある学生は「弁当の割りバシが奥歯につっかかって往生した」そう。ふ

んどし姿にかつがれて、神輿の上には、顔ペイントの、あれは死に神?

20人ほどの異装・異形の一団、第二演劇研究会だった。

「中大二劇春公演」「中大二劇新人募集」のノボリ。6月公演の宣伝と新人募集を兼ねたパフォーマンスというわけである。



「前にもイベントをやり、好評でした。今回は肉体性を表すイベントにしたいので、ふんどし姿で。人前に入ることは慣れてるので、恥ずかしさはないですね。でも冷たい目で見られると寂しいです。笑われたほうがいいですね」と児玉拓さん(文4)。

——ところで、新入の加入は?

「今年は6人、で



すね。4月の新歓は出店と公演を行いました。もちろん仮装して。確実に目立ってましたよ(笑)」と、これは橋口早紀さん(文3)。

——役振りの関係では、あまり多くても問題でしょ？

「いえいえ、多いに越したことはありませんよ。新人はずっと募集しています。何年生でもイイです！興味がある人はぜひ年3回やってい

公演にきてください」

稽古場に引き揚げると、ワイワイの雰囲気。俵万智じゃないけれど、△「どう、キミも入らない？」だなんてふんどし姿で言っているの？▽女性記者は目のやり場に困った。

中スポ「ホクホク」10人 アナ研「イマイチ」24人

新歓オリエンテーション祭。略して新歓オリテン祭、もつと略して、新歓。今年は4月2日から9日まで行われた。

中大の公認、非公認、非公認サークルを統括するサークル統一会議議長、小森亨さん(文3/演劇研究会所属)によると、「中央大学はサークル活動が盛んで、今年300を超えるサークルがペデ下、ペデ上に出店した」そう。ビラ配りだけの

サークルも多いから、「戦争」模様である。

法学部のある女子新入生は、体連球技系の部室に「ラチ」されて、試合のビデオをみせられ、「わが部の女子マネージャーに、ぜひ」とせがまれた。「ちょっとひかれるところもあつたのですが、やはり……断りました。部屋が男臭くて」。男たちのガツクリする姿が目に見えるようなエピソードである。

ひとまず戦い終えて——勝者と敗者の明暗。声もほがらかな「勝ち組」からみてみよう。

プロかと思紛う紙面づくりで定評のある中大スポーツ新聞部。新入部員は「大入りの10人」とホクホク顔だ。ちなみに女7、男3。他学年も女子が多いようで、インタビューに答えてくれた3人の男子部員いわく、「いまこの部屋に男だけしかないってのがめずらしい(笑)」。

新歓では特別なことはしなかったのに、1年生のほうから積極的に

入ってくれたという感じらしい。1年生はどこにひかれて？「入学式のときにもらった手提げ袋に入っていた新聞を見て、こりやスゲエって思いましたね！」と、さわやかに話すのは鈴木六朗さん(商1)。まずは紙面のインパクトをたたえ、「あとは雰囲気がいいことツスね！」。これには編集長・岸健太郎さん(経3)もご満悦。「うれしいこと言ってくれますねー。雰囲気は大切にしていますよ。重すぎず、軽すぎず。アバター5だけが楽しいサークルではなく、活動自体に楽しみを見つけて欲しいですから」

新入部員は入ってから、野球担当や駅伝を含む陸上競技担当などに別れ、それをビートにこの先ずっと取材をしていくことになる。基本的には希望に沿うのだが、なかには「新歓コンパのときに、好きなスポーツ選手の欄に宮里藍って書いたらゴルフ担当になってました……」という大堀裕一さん(経1)のような例も。

「みなさんの目をひきつける新聞をつくってきたい」「今年はしっかり学んで、来年につなげていきたい」と新人組の気概もばっちりのようだ。

名門・アナウンス研究会は、期間中、3日間にわたり、DJ、VTR、ラジオ番組を生公開してアピールした。ピラも例年よりも多めに、勧誘に力を入れた。「残念ながらその効果はイマイチ」(文3・伊藤早奈江さん)というが、それでも24人。例年並みというだけで、のちに登場する「嘆きのサークル」にはうらやましいような話である。

学年カラーでいえば、3年生はH O T、2年生はC O O L、新入生はきゅぴきゅぴ——となるそうで、女子の3分の1は実際にアナウンサーをめざしているという。

はや新入組も夏の番組発表へ活動中だが、名門ゆえの誤解もあるらしい。「アナ研はアナウンサーの育成に力を入れているのではなく、あくまで

重点はアナウンス番組作成。1年生にはあらかじめ説明しました」(同)。一方で、マスコミ系のアルバイトが紹介してもらえ、という噂は本当のようである。NHKやテレビ朝日、ニッポン放送……雑務だそうだが。

SFポスターの行方

たとえば、
「君と響きあうサークル SF研」

元ネタはあのTVゲームだろ、とピンとくれば資格あり、なんだろうか。ペデ下の柱の上のほうに、そんな仕掛けのポスターを何枚も見かけた。SF研究会はいつもコレ。

「ポスターは3月から作り始めて全部で100枚は作りますね。部員一人当たり5枚は作っていると思います」

そう語るのにはSF研会長の柳澤一智さん(文3)だ。部員は2、3年で30人以上いるそうだから、目のをみないポツのポスターもたくさん

あることになる。その採用基準——。「禁止しているのは公序良俗に反するもの、不謹慎なものや人を不快にさせるものです。それ以外には特に基準はないんですよ。各部員の感性に任せて、インターネット、TVや漫画などいろんな媒体から元ネタを持ってきて作ってもらい、他の部員が面白いと感じたものを採用しています。ですが、みんな自分の趣味に走ってしまうせいか、元ネタがわりづらいうものが多くなってしまうんですね」

「新入生がきたとき、その新入生が興味をもつ話ができる人が対応するのが適切です」

新歓活動の際
に守るべき伝統的な「暗黙の了解」もあるという。どのポスターを見てやってきたかで、対応は当のポスターを作った人がする、というふうな。

なるほど、出会
いから互いのコダ





ワリをぶつつけあってマニアックに盛り上がることだろう。小さな差異で大きな決裂、だつてあるかもしれないが。

それで、肝心の成果は？

「まだはつきりしないのですが、例年は8、9人なのに、今年は15人でいどの新入生が定期的に来ています。印象的なのは、2年と3年の新入生が5人ほど多いことですね」

一筋縄ではいかないSF研だが、「多種多様な趣味を共有できる人が集まって、気の合う仲間で会話する、文化系オールラウンドサークル」を名乗り、部室にはSF関連本もあるけれど、部員は漫画を読んだりゲー

ムをして楽しんだり。話を聞いている限りではSFとあまり関係ないような気が……？

「いえいえ、そんなことはなくて、SF研内部にSFゼミというものがあって、Cスクエア会議室を借りてSFを題材にした議論をしています。この前はドラえもんを題材にしてロボットの心を考察したりしました。SFの議論をする合宿もしようと思っているんですよ」

余談になりますが、と続く。

「私たちSF研究会が白門祭で出しているカクテルバー“ARAKI SS”という店名は、『砂の惑星』というSF映画の惑星の名にちなんで

います。15、6年前当時の部員がその映画を好きだったようで。SFに興味がある人は気兼ねなく来室してください。そして白門祭のARAKI SSもよろしく」

ケタ違いのラリー

「ウチは85人」(わかもの)、「少し負けませんが、50人が入りました」(MIZUテニスファミリー)と、

ケタ違いの声も聞こえてくる。ともにテニスサークルである。テニス系はなぜかいくつものサークルがあつて、独自のカラーでケンを競っている。それでも堂々の勝ち組。

「2年生以上が150人。新加入85人のうち、女性は35人ですね」と「わかもの」会長の山崎昇太さん(法3)は口も滑らか。「活動は毎日です。でも強制はありません。クリスマスパーティーやバーベキューもあります！ テニスのレベルは上級者から初心者まで幅広く、日韓NO1のOBもいますよ。5月の中大カップでは、9年ぶりに優勝しました。打ち上げは盛り上がりましたよ。優勝カップをビールで汚して、台所で洗いました」

理工とも合同のサークルで、伝統

の面でも一番のシニセだそう。新歓の3カ月前から準備し、チラシもCM会社とタイアップしてカラー入り。そういえば、裏に会社のCMの入ったカラー・チラシもやはりである。

こんなに部員が多くて、練習できるんですか？と聞いたら、「全員が打てますよ。それに、みんな仲がいい。『きつかけはわかもの！』。大学生生活はここで楽しめる、つてくらのサークルです」と、止まらない。お次は、男女半々、50人を集めたMIZU。2年以上が60人ともここも大所帯。「練習は週5。土日は遊びに行ったりもします。練習後の食事の後の遊びがあることも、MIZUの特徴です」と副会長の関内洋介さん(法3)。アフター・ダブル、「アフアフ」というのだそうで、車でディズニールンドに行ったり、海へ行ったり。「遊びに関する1年生の希望は、即採用します！」

中大カップの成績は、残念ながら11チーム中8位。楽しく、試合もガ

ンバツてくださいね。

「練習は不定期。できるときにやる、自由さがウリです！」ともっとハッキリしているのは「HURLY

HURLY」。2年生以上50人と少しこじんまりしているが、こども20人プラス。会長・富田恭輔さん(法3)は言う。

「テニスのレベルは最弱です……だけど初心者でも思いつきり楽しめます。ラケットがいらさない、私服でOK、強制がない……。とにかく自由！なのがこのサークルです。気軽にテニスが楽しめます。人数が少なからこそ、アット・ホームというのかな。一人ひとりの関係が深く、個性も伸ばせる、そんなサークルです」

オールラウンドな高笑い

テニス系をも凌駕するのが、オールラウンドサークルである。

「It's」の会長・工藤望さん(経3)と前会長・川原潤平さん(商4)

に聞くと、「6月締め切りなので正式な人数ではないけど、いま100人くらい。去年よりも多いかな」と余裕の弁だ。

バレエ、バドミントン、卓球、サッカー、ソフトボールなどなんでもありがオールラウンドのゆえんで、「一番頻度が高いのはバレエ。サッカーは学区外の大会にも出場している」そうだ。

一番盛り上がるのは？ 「秋合宿と学祭かな。秋合宿のメインイベントは役員の新旧交代で、他には班対抗のミニ運動会やクイズ大会もやるよ。学祭は、創立以来毎年、たこ焼き屋さん。中大で一番おいしかった焼き屋さんです」

飲み会も「コールが楽しくて、盛り上がる」そうで、これまでやった珍しい行事といえば、ホノルルマラソン、富士登山、ウイニングイレブン大会など数あるなかで、「一番はクリスマスコンパ」のよう。

「みんなスーツとかドレスで正

装して、おしゃれな店を貸し切ってやるんだ」。ちなみに、7割方が女子。

テスト前には「テスト対策本部」を設置し、みんなで情報を集めあつて対策を練るといふ。これも新入生のココロをくすぐるようだ。

「Friends」は、「新歓には100人くらい来たけど、その後の活動に来た人を入ったとみなすので、はつきりした人数はまだわからない。去年は約40人」(会長の文3・杉森勇輔さん&副会長の商3・井出潤さん)。

「土日を中心に週1回、バレエ、ドッジボール、バスケット、ソフトボールなどのスポーツのほかに、なわとびや、鬼ごっこ、警ドラなどの昔ながらの遊びも。あとは、随時案が出ればなんでもやります」。春は名のみ3月に、「流しそうめん」をやったこともあるらしい。



「Friends」という名の通り、サークル活動を通じて、フレンドリーに一生の友達づくりができること。4年間で、卒業後も付き合い合っているような深い絆ができます。サークルに入る時期を逃しちゃった人でも、いつでもWelcomeです!!」と会長は強調した。

去年誕生した「Stand Up」

も「去年を上回る、約50人がきてくれました」と会長の野村龍矢さん(法3)。ここもバレー、ソフトボール、サッカーといろいろだが、「一番頻度が高いのはバレー」という。

珍しく、「飲み会でのコールは一切なし」をうたう。

「女の子の中には、コールを嫌がる子が多いので、飲み会には一番気を遣っています。女の子も楽しめるように、会話中心にして」

去年のクリスマスパーティーは「男女それぞれくじを引いてペアを決めて、バニカミプラン」で盛り上がったらしい。飲み会のコールなし、たまり場にだれかいるアット・ホームさが新人生にウケたようだ。

モダンジャズVSスウィング部

大ヒット映画「スウィングガールズ」の効果はあっただろうか。

「モダンジャズ」はチラシを一枚も配らなかつた。「来すぎて困るので」と堤頭子さん(経3)。いま

は映画にかかわらずジャズブームなのだそう。5年前は全体で20人だったというのに、いまや70―80人の人気がぶりなのだ。今年は、コンパの新生参加者は40人、うち加入者は35人。去年よりはすこし少なくなったという。「スウィング部に取られたんだと思いますよ」と、これはライバル心の現れか。

で、「スウィング部」というと、スウィングガールズの写真を飾って勧誘作戦を展開した。意外にも、くいつきは悪かつたそうだ。結果は例年より少ない19人。「特にギターとピアノをまだまだ募集中です!」と柳原尚美さん(文3)。

5、6人のセッションを組んで演奏するモダンジャズに対して、華やかな17人編成で、アンサンブルを奏でるスウィング部。参加の自由度で、すこし差が出たか?

「男声合唱部」といえば、入学式、卒業式にひっぱりだこの、由緒正しい名門サークルだ。それが去年は新

部員1人と、存続の危機に陥った。このままでは危ない!!と一念発起、全員がマジリを決して、「男というオトコを全員勧誘してみせるっ」という意気込みで臨んだ。Cスエアの真新しい部室に招き入れた新人生は30―40人。「2時間ぐらい世間話したら、もう逃げられないでしょう」と飯島勇介部長(商3)が言うのも

フシギはない。男しかない居心地のよさ、歌った時の迫力が自慢。こうなると、去年の新人生1人についても、

「男しかいない堅めのサークル、コンパなどは売りにしない」と強気だったのだが……結果は7人。それでも、去年の7倍増である。コーギー、竹リン、タッチ、オテラ……部員同士のあだ名にも、ある種の品のよさがある、

とっておきたい。70歳、80歳で現在も歌い続けるOBとの合同ステーションや飲み会もある。「お酒を飲むときのマナーも身に付きますよ」女ですもの、記者は入れない。カラオケは好きだけど。

ラクロスに並ぶ「点字」「地学」

「流した汗はうそつかない」――



「どこかの清涼剤メーカーを思わせるコピーで迫ったのは「女子ラクロス部」。陽に焼けた健康的な肌、ステキな笑顔で現われた次期代表・森本富貴さん(経3)が言うには、「部員全員にメーリングリストで、キヤッチコピーを募ったんです。一人一本必須、みたいな感じで」。

ほかに「セレブでハイセンスなスポーツ」「笑い80%、涙20%」……と採用5本。結果は——入部7人。凝ったわりには……というわけで、「1年中いつでも部員募集中」とのこと。

ラクロスは大学から始める人がほとんどだ。部員の高校時代の部活歴を聞くと、バスケット、サッカーから、吹奏楽部まで。かくいう森本さんも「チアに入部したかったんですけど、ラクロス部の温かい雰囲気に着かれて、そのままに」と笑う風情がセレブ風、と言えなくもなかった。「点字朗読サークル」は部員8人の小世帯だけど、6人が新加入して

躍進した。「点字はアルファベットと一緒に並べ方に規則があるからすぐに覚えられますよ。そんなに難しくはありません」と代表者の川上翔さん(経4)が言う。

現在の活動内容は、部員として所属している視覚障害者の河野泰弘さんが授業中にもらったプリントや、河野さんが読みたい本を点訳(⠠文字を点字に翻訳すること)するのが主だという。

「点字を覚えたらもつというんなボランティア活動ができると思うので、興味があつたらぜひ、きていただきたいと思います。いつでも募集中です」

「地学愛好会」にも8人。「去年より2人多いです。新歓合宿では、昼は化石掘り。葉っぱの化石が掘れるんですよ。夜は奥多摩のホテルでバーベキューと飲みが主で、星を見るのはおまけのようなものでしたね」と小野塚岳文さん(法3)は満足的笑み。

「お後がよろし」くない……

吐息、ため息

「10人の加入があつたんですけど、今年も男ばかりで女子は1人」と、そんなぼやきも聞こえてきた。ぜいたくというか、本音というか。お堅い学術系なので、名

を秘すが、「ことは女子にターゲットを絞ったんですよ。

ポスターも地味色はやめて、黄色の暖色系にしたりとがんばったんですけどね。空振りでした」と、

副部長はうなだれた。学間に精出すしかないだろう。

吐息やため息こそが、じつは新歓の綾なすドラマ、味わい深い陰影というべきである。たとえ「負

け組」といわれようとも。

5月の終わり、「この時期に、こんなポスター貼るってどういうことか分かるかい？」というポスターが、風にヒラヒラしていた。「答えは……」と書かれたケータイ番号先は、落語研究会。





例「せこだ会」は、上級生は応援出演だけで、新入部員中心の顔見せライブというのが代々の習わしというのだが。

とても「お後がよろしいようで……」とはいかず、「一年中、部員は募集中！ とにかくサークル棟4402号室にきてほしい」と、オチなしの真顔である。

ライトなサークル志向に抗して

「いまのところ3人が入部して、あと入部を迷っているのが2人……。もともと部員数が3人なので、苦しいですよ。新歓はライブとコンパをして、30人から40人がきたので期待していたのですが」と竹内司郎さん（経3）も浮かぬ顔だ。

「ギター侍」やら「ヒロシです」やら、あれほどお笑いブームだといふのに、ドラマ「タイガー&ドラゴン」の効果も「ナイですねぇ」。

落語だけでなく、コントや漫才などもやっている。10月上旬予定の恒

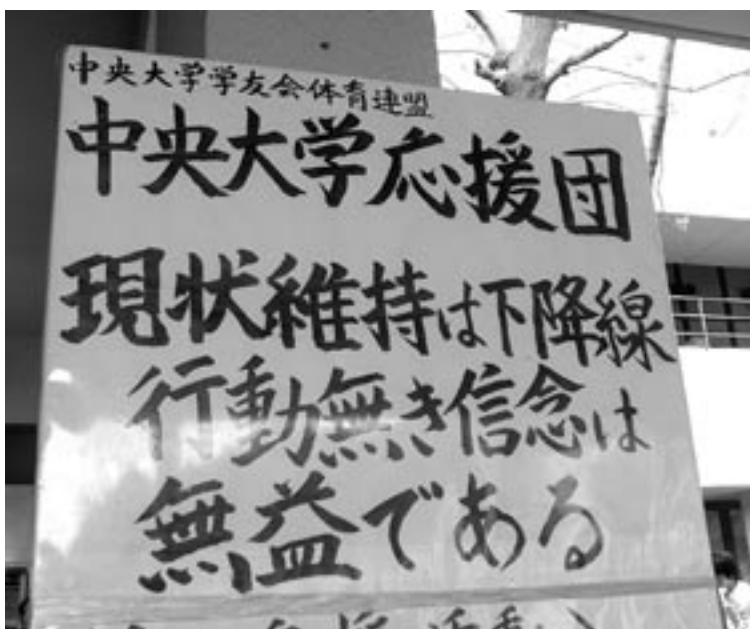
じつは表2（表紙裏）にダイナミックな写真を紹介した伝統の「山岳部」も苦戦。現部員わずかに2人。存亡の危機と、新部員募集を兼ねて、5月9日から13日まで図書館下で写真展を開いた。中間成果を聞いたら、「いやあ、学生の『壁』は険しくて、まだゼロです」と浦部陽介さん（総5）の肩が寂しげだった。そこで写真展をさらに1週間延長。どうでした？ 「3人ほどきてくれそうです。期待がもてそうなタイプばかりが」と、山男の笑いがこぼれた。ヨカッタ。

こうしてみると、エントリー多数の人気のサークルは「楽しさ」や「仲のよさ」をウリにするところが多いようである。呼びかけも、「無理せず、そのままのあなたでいいですよ」というように。逆に、「変わらない私、ではなく、変わりつつ成長する私」を期待する、多少ともガンバリを伴うようなサークルは概して分が悪い。「豊かさの世代」のライトなサークル志向だろうか。芸道”の精進も大変だし、山男の道も。氷壁に挑む写真を眺めれば、ワレに命をかける覚悟はありや、と身がすくのもまあ無理

からぬところではあるけれど。

トリの応援団「ケジメつけた」

トリにふさわしいのは、やはり応援団（応援部・リーダー部）でしょうね。中央ステージで入学歓迎・入団大歓迎のエアを送り、9日です



ぎてもいつときペデ下に机を構えて、後続のリクルートにつとめた。現部員4人。質実剛健、硬派のカタマリだが、同じ応援部のチアリーディング部が「友情写真出演」のチラシ一つにも、新たな気合いがこもっていた。その結果を報告しよう。語るのは、是枝潔団長（法4）である。「3人の加入がありました。7人のサムライで日本一古き歴史と伝統を、きちり守っていきますよ」

「自由と責任」意識を

小森・サークル統一会議議長

冒頭紹介したサークル統一会議議長の小森さんに新歓オリテン祭を総括してもらおう。

「今年はわりと穏やかに進んだと思います。そして、オリテン祭期間中、学校側からとられている禁酒措置も徹底できました。期間中のデキゴトといえ、4月8日だったと思うのですが、中央ステージで煙があがっ

たんですよ。もしかしてノロシ？と一瞬ヒヤッとしたのですが、OA機器の故障で、大事には至らずなによりでした」

——サークルへの注文は？

「どのサークルも新歓活動には力を入れていて感心します。サークル間のトラブルがなければ、宣伝など大いにやってもらって構わないと思います。やはり、サークルにとつて宣伝は大事ですから。しか

し、最低限のモラルは守って欲しい。『freedom and responsibility』（自由にしてもいいけど、そのぶん何か問題があったら責任をとる）の精神が大事だと思います」

——具体的には？

「毎年のことなのですが、ポスターやビラの貼り方に少し問題があります。たとえば、他のサークルのビラの上に重ねて貼ったり、ガムテープではなくのりで貼るなどで

す。掲示板などの貼り場所を増やすという案も継続して審議しています。あとは新歓活動が終わったら自分たちのポスターやビラを剥がして欲しいですね」

——サークルとは何でしょうか。

「一つの目標に向かって、みんなで動いていくものだと思います。そして、好きなことをしながら自分を成長させることができるものだと思います」

ます」

本誌にも大量？9人

サークルではないけれど、『Hakumonちゅうおう』には、9人（うち2年生2人）の新人学生記者が誕生した。その9人が中心になって取材した、これは初仕事の特集である。それにしても生意気なことも書いてある？ 大目にもってくださいね。それに長い目で。

各サークルともどもの健闘を祈つて——。

※新入部員数は取材時点（5月初旬）のもので、大半が「年中募集」につき変動もあることをお断りします。

【学生記者取材班】

（2年）滝沢孝祐〓総〓木村信之

〓商〓清水琢〓文

（1年）池内真由〓法〓岩倉彩〓

商〓加藤理香〓文〓中島聡〓総〓中

田綾美〓法〓八並恵理子〓同〓山崎

綾香〓同

